

共通テーマ「法政大学の体育授業について」 ： 法政大学の体育授業について

神和住, 純 / Kamiwazumi, Jun

(出版者 / Publisher)

法政大学体育・スポーツ研究センター

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政大学体育・スポーツ研究センター紀要 / 法政大学体育・スポーツ研究センター紀要

(巻 / Volume)

30

(開始ページ / Start Page)

96

(終了ページ / End Page)

96

(発行年 / Year)

2012-03-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00007815>

法政大学の体育授業について

神和住 純（法政大学）

現代の若者における、体力低下は文部科学省の調査においても指摘されている。

当大学では、週一回、通年において、スポーツ総合の授業を行っており、これは必修不可欠なものであり、スポーツの重要性を、我々体育教師が常に唱え続ける事である。

私自身、工学部・現代福祉学部・スポーツ健康学部の学生を指導してきましたが、殆どの学部の学生は週一回のスポーツに飢えており、80～90%以上の学生が体育授業に関して満足しているのではないのでしょうか、この事は学生によるFDアンケートの結果を見てもそうである。

ただ、近年は必修授業から選択授業への移行、通年授業から半期セメスター制への移行が目立ち、必修でないのならば、体育授業は履修しない学生がいることも事実のようだ。

体育授業のカリキュラムは、各部の判断にゆだねることになるが、ある程度、必修という単位の縛りがあっても良いのではないだろうか？

体育授業は1・2年次で終了する学部が殆どで、上級生のための体育授業が殆ど無い現状において、何年か前に工学部では、3・4年、院生のために、各学科共通の授業を週2コマで選択授業を組んだことがありました、スポーツ好きの上級生は、当初、履修生が少なかったのですが、口コミで徐々に増えて、週一回の息抜きになっていた事でしょう。

現在、スポーツ健康学部では上級生でもスポーツ実習が履修できるような環境になっている。各学部では、1年生だけでなく、上級生の為のスポーツも考えてよいのではないか。

教場については、小金井地区でのスポーツ施設は、私が赴任した当時、必ずしも好条件ではなかったが、緑町スポーツ施設の充実、梶野町キャンパス内に新体育館・小体育館が建設され工学部の再編成改革とともに、現在、スポーツの施設は充実している。

多摩キャンパスにおいては、広大な敷地に多くの教場があり、4学部の大所帯が上手にローテーションを組んでおり、効率よく機能しているが、各々の教場において老朽化も進んでおり、各種目の道具類についても、教員が小まめにチェックし、常に新しいものを補充していく必要があり、学生のためには、古い用具を使いまわすことになるが、仕方がないこともある。

広大なキャンパス内を、授業間に移動する学生も大変だが、バスの運行に関しても、授業間や昼休みに集中する時間帯を、上手に効率のよい運行システムにしていなければありがたい。

恒例の運動適正検査を4月授業開始の2週連続で行うこ

とについては、1回で終わるようにした方が、実技が1回増えるので学生には、この方が良いと思われる。

スポーツ健康学部では、常々言っていることに、必ずキャンパス内で「挨拶」をするように指導しており、学生もかなり声をかけるようになっている。各学部でも体育授業において、教員・先輩・後輩・知人・事務員にあった場合、「こんにちは」の挨拶を履行するように、毎年、毎年、根気よく指導していかなければならない。

スポーツと挨拶で明るく楽しいキャンパスライフにしたいものです。